

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

ドル高材料がいっぱい♪ (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 田中 春菜

今週のドル円予想レンジ **109.50 ~ 111.50**

りそなWEEKLY COLUMN

相場師 本間宗久の秘伝の必勝法 (P3)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーグループ 小林 翔太郎

- 江戸時代の相場師 本間宗久
- 秘伝の相場必勝法「三位伝」とは？
- 「相場後悔には二つあり」

2021/4/5

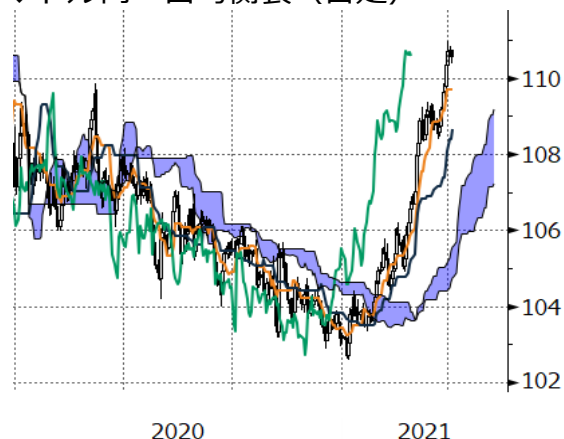
りそな外為レポート

ドル高材料がいっぱい♪

今週のドル円予想レンジ **109.50 ~ 111.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週末のマーケットは海外投資家がグットフライデーで閑散としていた中、米雇用統計が発表され、市場予想を大幅に上回る強い結果となった。今週のドル円は引き続き110円台で推移し、米金利の動向によっては、111円を再び試す展開を予想する。週末の米雇用統計の結果と3月31日に発表されたバイデン政権の2.25兆ドルのインフラ投資計画で米労働市場にテコ入れが入る事を踏まえると、マーケットは再び米国の早期金融緩和縮小を意識し始める可能性がある。待てど暮らせど、足元はドル高材料ばかり出てくる状況。ドル円を売りたい皆さまには、売り水準をしっかりと見極めていただき、ドル円を買いたい皆さまには、徐々に進むかもしれない円高局面で買い下がり推奨したい。

本日は、出会いと別れの春にちなんだ替え歌で締めさせていただきます。

『ドル高階段昇 君はまだシンデレラさ
円高は誰かがきっと 運んでくれると信じてるね
正気じゃなかったといつの日か思う時がくるのさ』
(H2O再び、カスタマーディーラー 田中春菜)

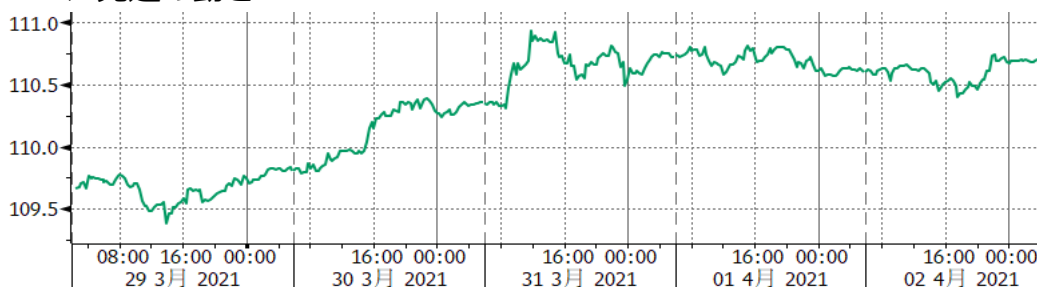
◆今週の日程

5日(月) 米 3月ISM非製造業	7日(水) G20財務相・中央銀行総裁会議(～8日)
5日(月) 米 2月製造業受注	8日(木) 日 3月景気ウォッチャー調査
6日(火) 日 2月毎月勤労統計	9日(金) 日米首脳会談(予定)
7日(水) 米 2月貿易収支	9日(金) 米 3月PPI
7日(水) 米 FOMC議事録(3/16, 17)	9日(金) 中 3月CPI・PPI

◆今週の予想 (ドル高 強い↑ 普通↑ ドル安 強い↓ 普通↓) NY引け値 4月2日(金) 110.69円 VS 4月9日(金)

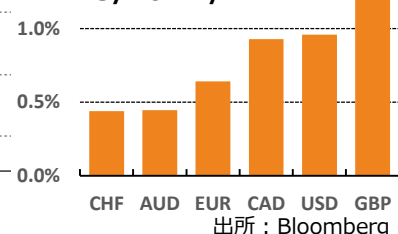
東京							大阪			埼玉						
井口	中根	石川	湊	小新	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↓	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↓	休	↑	↓	↓	↑	↓	↑	↑	↑

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス

3/26→4/2



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/4/5

りそな WEEKLY COLUMN

相場師 本間宗久の秘伝の必勝法

- 江戸時代の相場師 本間宗久
- 秘伝の相場必勝法「三位伝」とは？
- 「相場後悔には二つあり」

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーグループ 小林 翔太郎

江戸時代の相場師 本間宗久

皆さんは伝説の相場師本間宗久（1717～1803）をご存知でしょうか？

時は江戸時代、八代将軍の徳川吉宗が米価調節に努め、上米の制、定免法、新田開発といった政策を打ち出して、米将軍と呼ばれた頃、米相場の売買によって莫大な富を得たと伝えられている人です。「本間様には及びもないが、せめてなりたや殿様に」。巷ではこんな小唄がうたわれていたそうです。宗久は、出羽酒田の豪商の家に生まれ、米相場取引によって、もともとあった本間家の資産を何倍にもしたと言われています。本コラムでは、相場師宗久が自らの相場術を後世につたえるために書き残した『三位伝』について、話して行きたいと思います。

秘伝の相場必勝法 「三位伝」とは？

この『三位伝』という本は、別名『本間宗久翁秘録』とも呼ばれており、宗久はこの本を門外不出の書としました。『三位伝』の一節に以下のような文があります。

「此書（このしょ）、懇意の間柄にても、必らず必らず見せ申間敷（もうすまじき）なり、全く、我一人富まんとは非ず。此書を能々（よくよく）見極めもせず、心安き者に心得、売買致候へば、手違になり、時により身上（しんじょう）に拘（かか）はり、恨みを受くる故に、必らず必らず他見無用の事、可秘（ひすべし）可秘。殊（こと）に三位の伝は天下に稀（まれ）なる法立（ほうだて）にて、知る者数少なし。此法に、随（したがっ）て売買致時は、神徳利運にして、損すると云ふことなし。大切に心得、秘蔵すべし。可慎（つつしむべし）可秘。」

この本に書いてあることを、よく読まずに簡単に心得て相場で売買すれば誤って、大損することもあり得る。そういった人達から、恨みを買わないように、この本は秘伝にする。懇意の間柄でも決して見せてはいけない。そのいっぽうで、この本に書いてあることに忠実に従っていれば、相場で損することはないと言います。さすがに伝説の相場師です。自信満々の書きぶりです。相場で損をしない方法とはいったいどのような方法なのでしょう？



りそな WEEKLY COLUMN

天下に稀なる相場必勝法「三位の伝」とはいったいどのような方法なのか。宗久は以下のように書いています。

「①米商（こめあきない）は、附出（つきだ）し大切なり。附出し悪しき時は、決して手違ひになるなり。又②商（あきない）進み急ぐべからず、急ぐ時は附出し悪しきと同じ。売買共、今日より外商い場なしと進み立つ時、三日待つべし、是（これ）伝なり。③得（とく）と米の通ひを考え天上底の位を考え売買すべし。是三位の伝なり。底値段出ざる内は、幾月も見合せ、凶に当る時を考へ売買すべし。」

つまり、必勝法「三位伝」は次のようにまとめられます。

- ①米相場の取引は、付き出し（最初の第一歩）が大切である。
- ②相場の売買は急いではいけない。
- ③相場の動きを考え、相場の天井と底がどの位になるのか考えて売買する。

確かに、相場の底で買い天井で売ることができれば絶対に損はしないと言えるでしょう。ただ、なかなか自分の思ったところが上手い具合に底や天井になってくれないのが相場というものです。それでは、自分の思ったように相場が動かないときはどうすればよいのでしょうか？

「不利運の時、売平均（うりへいきん）買平均（かいへいきん）決してせざるものなり。思入違ひの節は早速に仕舞（しま）ひ、四五十日休むべし。十分仕当る商内にても商内仕舞ひ候後は四五十日休み、米の通ひを考へ、三位の伝を引合せ、凶に当る時を考へ、又仕掛くべし。何程利運を得ても、此休むことを忘るゝ時は、商仕舞の時は、極めて損出（そんいづ）ると心得（こころう）べし。但（ただ）し商仕舞休むと云ふは、何心なく休むにあらず、其気の強弱を離れ、日々通ひ高下を油断なく考ふべきなり。」

相場が見込み違いの方向に動く時は、早々にポジションを手じまいして、四～五十日は売買しないでじっと相場の天井と底がどこなのか見極め、それを見極めたうえで初めて、また新しい取引を再び行うべきだと言います。反対に、相場で儲かっている時も、利益確定後は、四～五十日相場を休むべきだとしています。相場に負けている時、損を取り戻そうと躍起になり、天井で売って、底で買うという基本原則を忘れがちになり、結局損をする。反対に、相場で勝っている時は、つい欲張ってより大きな

相場が自分の思い通りにならないときは…



りそな WEEKLY COLUMN

相場後悔には 二つあり



利益が出るのを待つうちに、相場が逆に振れて損失が出る。こうした人間の心理を看破した宗久は、相場で負けた時、あるいは勝っている時でも、いったんポジションを手じまいしたら、次のポジションを取るまで四～五十日待ち、その間損益から離れて、冷静に相場を考えるべきだとしています。

相場師としての経験を積んだ宗久は、相場に関わる人間の心理を鋭く洞察しています。次に、相場心理についての宗久の考察を一つご紹介させていただきます。宗久は、相場関係者がする後悔には二種類あると言います。いま米を既にも買って、いつ売ろうかとしている時に、

- ①あと5～6日待てば、まだ値段が上がって100%の利益が得られたはずのところ、利食い売りを早くし過ぎて、80%の利益しか得られず利食いするのをもう少し待っておけばよかったと後悔するパターン。
- ②自分の利益目標に対して70～80%の利益が出ている時に、まだまだ行けるだろうと思って、利食いをしないで待っているうちに、相場が思いのほか下がって来て損が出た時に後悔するパターン。

以上2通りのパターンがあると言います。宗久は①ならばまだ笑って済む話だが、②については、相場で余計な気苦労をした上での後悔なので甚だ心を痛めるものだとしています。あまり欲張り過ぎてしまうと、相場が逆方向に動いて損が出た時には甚だ苦しい状況に陥ると言うのです。宗久はこういった事態に陥るのを避けるため、利益を深追いせずに腹八分目にしておくといふとアドバイスしています。

最近のドル円相場を振り返ると、昨年のコロナショック後、上下を繰り返しながら緩やかな円高傾向が続いていたドル円は、今年1月初旬に102円60銭まで下落した後、するすると上昇し、3月末週に110円を突破しました。ドル円が、102円台に突入した時には、このまま100円を割れるのではと思い、予約を取りそびれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし乍ら、結果としてドル円は急速なスピードで上昇して行きました。あまりにもスピードが速かったので対応しきれなかったという輸入企業さまの話をよく伺います。あの時に、為替予約を取ってリスクヘッジしておけばよかった… 宗久の言う腹八分目のアドバイスは現代においても有効なのかも知れません。腹八分目の為替予約をご検討の際は、是非りそなグループにご相談ください！

【参考文献】

青野豊著作『相場秘伝 本間宗久翁秘録を読む』東洋経済新聞社 2002